

「心電図変化に対するイオン化カルシウム、総カルシウム、 補正カルシウムの関連の比較検討」に対するご協力のお願い

研究責任者 畔上 達彦
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 腎臓内分泌代謝内科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2012 年 1 月 1 日から 2025 年 6 月 30 日に当院外来(救急外来および予約外受診)を受診され、同時にイオン化カルシウム、血清総カルシウム、血清アルブミン、血清カリウム、血清リン、血清マグネシウムの測定、心電図検査をされている方

2 研究課題名

承認番号 20251188

研究課題名 心電図変化に対するイオン化カルシウム、総カルシウム、補正カルシウムの関連の比較検討

3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学病院

研究責任者

(職位) 専任講師 (氏名) 畔上達彦

4 本研究の目的、方法

血液中のカルシウムは、体内で実際に生理的な作用を示す「イオン化カルシウム」と、アルブミンなどの蛋白質に結合して存在する形に大別されます。通常、全体のカルシウム量を示す「総カルシウム」を測定し、アルブミン値に応じて補正した「補正カルシウム」を用いて評価が行われます。

しかし、近年、総カルシウムや補正カルシウムは、生理的に活性を有するイオン化カルシウムを必ずしも正確に反映していない可能性が指摘されています。

カルシウムは心臓の電気活動に深く関与しており、その影響は心電図上の QT 間隔として現れることが知られています。しかし、イオン化カルシウムと比較して、総カルシウムや補正カルシウムがどの程度、体内の実際の状態を反映しているかは明らかではありません。

そこで本研究では、イオン化カルシウム、総カルシウム、補正カルシウムの各指標と心電図 QT 間隔との関連を比較検討します。本研究により、臨床現場においてより正確に体内カルシウム状態を評価する方法を明らかにし、今後の診療の質向上に貢献することを目的としています。

5 協力をお願いする内容

2012 年 1 月 1 日から 2025 年 6 月 30 日に当院外来(救急外来および予約外受診)を受診され、同時にイオン化カルシウム、血清総カルシウム、血清アルブミン、血清カリウム、血清リン、血清マグネシウムの測定、心電図検査をされている方を対象とし、心電図変化とイオン化カルシウム、総カルシウム、補正カルシウムの関連について解析をさせていただきます。これらの関係性を適切に評価するため、血液検査・尿検査・心電図・併存疾患・使用薬剤・年齢・性別・身長・体重などのデータを電子カルテより収集を行い、解析に使用させていただきます。

なお、新たなサンプル取得や追加の検査などは一切ございません。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2029 年 03 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当しません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用や他の研究機関への提供の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

実施施設 慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

研究責任者 畔上達彦 腎臓内分泌代謝内科

連絡先：03-5363-3796

FAX：03-3359-2745

E-mail: t.azegami-1114@keio.jp

なお、お電話でのご連絡は可能な限り診療時間中[月曜日～金曜日および第 2・4・5 週の土曜日(ただし祝日は除く)、午前 8 時 40 分から午後 4 時 30 分]にお願いいたします。

以上